

教科	国語	科目	現代文A	単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	選択(普通科文系・国際教養科)

1. 学習の目標・概要

近代以降の様々な文章を読むことによって、言語文化に対する理解を深め、多角的な視点を持ち、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

2. 使用教材

- ①『高等学校 改定版 新編 現代文A』(第一学習社)
- ②『高等学校 改訂版 新編 現代文A 学習課題集』(第一学習社)
- ③『常用漢字パーフェクトクリア』(尚文出版)
- ④『国語頻出問題 1200』(いっずな書店)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	【随想・評論】 福田哲夫「なぜ“コロンブスの卵”を描くのか」 飯田朝子「数え方で磨く日本語」	3 3	1学期中間
	5月	【小説・詩歌】 いしいしんじ「調律師のるみ子さん」	4	
	6月	【随想・評論】 阿刀田高「犬も歩けば棒に当たる」 河合隼雄「花女房」	3 4	1学期期末
	7月	平田オリザ「コミュニケーションの文化」	3	
2 学 期	8月	【随想・評論】 千松信也「クマを変えてしまう人間」	4	2学期中間
	9月	原 研哉「大量生産の眩暈」 【小説・詩歌】 夏目漱石「こころ」	3 8	
	10月	【随想・評論】 森本哲郎「経験の教えについて」 鷺田清一「支えあうことの意味」	5 5	2学期期末
11月	【小説・詩歌】 原田マハ「いろはに、こんぺいとう」	5		
12月				
3 学 期	1月	独自教材による文章読解	20	
2月				
3月				

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合評価する。

- ①定期考査の素点
- ②出席状況(欠課・遅刻・早退の数)
- ③授業態度(教材準備・発問評価・積極性等)
- ④家庭学習状況(課題提出・小テスト・ノート等)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・分かりにくい語句は辞書で調べ、語彙を増やす。
- ・常に本文中に根拠を求める論理的な読みを心がける。
- ・文学的文章は特有の表現を確かめつつ、人物、情景、心情の描写を的確に捉える。

教科	国語	科目	現代文B	単位数	3
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	必修(普通科文系・国際教養科)

1. 学習の目標・概要

近代以降の様々な文章を読み、読解力を高めるとともに、ものの考え方や論理の展開の仕方を学び、自ら進んで表現できる力を養う。

2. 使用教材

- ①『改訂版 現代文B』(数研出版) ②『改訂版 現代文B 準拠ワーク』(数研出版)
 ③『常用漢字パーフェクトクリア』(尚文出版) ④『新国語総合ガイド』(京都書房)
 ⑤『国語頻出問題 1200』(いっずな書店) ⑥『完成現代文』(尚文出版)

3. 学習の計画

	月	内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	【評論】西垣 通「知識社会という幻想」 岡 真理「文化が違う」とは何を意味するのか?	6 6	1学期中間
	5月	【小説】原田マハ「無用の人」	6	
	6月 7月	【評論】丸山真男『『である』ことと『する』こと』	12	1学期期末
2 学 期	8月	【評論】多木浩二「消費されるスポーツ」 山田登世子「メディアのテロル」	7 7	2学期中間
	9月	【小説】阿部公房「赤い繭」	8	
	10月	【評論】河野哲也「環境と心の問題」 今福龍太「エコロジーのミューズを求めて」	8 8	2学期期末
	11月 12月	鷲田清一「顔の所有」	7	
3 学 期	1月 2月 3月	【特編】問題演習	30	

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合評価する。

- ①定期考査の素点 ②出欠状況(欠課・遅刻・早退の数) ③授業態度(教材準備・発問評価・積極性等)
 ④家庭学習状況(課題提出・小テスト・ノート等)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・分かりにくい語句は辞書で調べ、語彙を増やす。文章を読んで考えたことを自分の言葉でまとめ、表現する力をつける。日頃から読書や新聞など活字に親しみ、基本的理解力を高めていく。
- ・常に本文中に根拠を求める論理的な読みを心がける。
- ・文学的文章は特有の表現を確かめつつ、人物、情景、心情の描写を的確に捉える。
- ・毎時間行う小テストの勉強をしっかりと行い、力をつける。

教科	国語	科目	現代文B	単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	必修(普通科理系・国際教養科)

1. 学習の目標・概要

近代以降の様々な文章を読み、読解力を高めるとともに、ものの考え方や論理の展開の仕方を学び、自ら進んで表現できる力を養う。

2. 使用教材

- ①『改訂版 現代文B』(数研出版) ②『改訂版 現代文B 準拠ワーク』(数研出版)
 ③『常用漢字パーフェクトクリア』(尚文出版) ④『新国語総合ガイド』(京都書房)
 ⑤『国語頻出問題 1200』(いっずな書店) ⑥『完成現代文』(尚文出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	【評論】西垣 通「知識社会という幻想」 原田マハ「無用の人」	5	1学期中間
	5月		5	
	6月 7月	【評論】丸山真男『『である』ことと『する』こと』	10	
2 学 期	8月	【評論】山田登世子「メディアのテロル」 【小説】阿部公房「赤い繭」	8	2学期中間
	9月		7	
	10月 11月 12月	【評論】今福龍太「エコロジーのミューズを求めて」 鷲田清一「顔の所有」	8 7	
3 学 期	1月 2月 3月	【特編】問題演習	20	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合評価する。

- ①定期考査の素点 ②出席状況(欠課・遅刻・早退の数)
 ③授業態度(教材準備・発問評価・積極性等) ④家庭学習状況(課題提出・小テスト・ノート等)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・分かりにくい語句は辞書で調べ、語彙を増やす。文章を読んで考えたことを自分の言葉でまとめ、表現する力をつける。日頃から読書や新聞など活字に親しみ、基本的理解力を高めていく。
- ・常に本文中に根拠を求める論理的な読みを心がける。
- ・文学的文章は特有の表現を確かめつつ、人物、情景、心情の描写を的確に捉える。
- ・毎時間行う小テストの勉強をしっかりと行い、力をつける。

教科	国語	科目	古典A	単位数	4
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	選択(文系・国際教養)

1. 学習の目標・概要

多くの古典作品に触れることで、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典作品を楽しみながら講読することにより、日本・中国の歴史文化を学び、人生を豊かにする。

2. 使用教材

- ①『高等学校 古典A 大鏡 源氏物語 諸家の文章』(第一学習社)
 ②『古典A 学習課題集』(第一学習社) ③『完全マスター古典文法』(第一学習社)
 ④『新明説漢文』(尚文出版) ⑤『重要古語単語315』(桐原書店)
 ⑥『新国語総合ガイド』(京都書房)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	・古文 「時平と道真」(『大鏡』) ・漢文 「答陳商書」(『昌黎先生文集』)	14h	1学期中間
	5月	・古文 「藤壺の宮の入内」(『源氏物語』)		
	6月	・古文 「はいずみ」(『堤中納言物語』) ・古文 「若君の結婚」(『とりかえばや物語』) 7月	23h	1学期期末
2 学 期	8月	・古文 「時平と道真」(『大鏡』) ・古文 『源氏物語玉の小櫛』	30h	2学期中間
	9月	・漢文 「徐公長者」(『池北偶談』)		
	10月	・古文 「姫君の失踪」(『住吉物語』) ・古文 「住吉での再会」(『住吉物語』) 11月	30h	2学期期末
	12月	・古文 服部土芳『三冊子』		
3 学 期	1月 2月 3月	・特編 問題演習	40h	

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ① 4回の定期考査の素点 ② 出欠状況(欠課・遅刻・早退の数)
 ③ 授業態度(教材準備・発問評価・積極性等) ④ 家庭学習状況(課題提出・小テスト・ノート等)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

基本は古典Bと同じである。

- ①授業のあったその日のうちに必ず復習し、重要単語・文法事項・句形などを全て覚えていく。
 ②予習をしっかりと行い、文章の読み方や単語の意味などを事前に調べておく。

教科	国語	科目	古典B	単位数	3
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	必修(普通科文系・国際教養科)

1. 学習の目標・概要

古典の教材を読み、当時の文章や考えに触れることにより、古文・漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方等思考の幅を広げる。また、日本の文化や古典への理解・関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 使用教材

- ①『改訂版古典B 古文編』『同 漢文編』(数研出版)
- ②『改訂版古典B 準拠ワーク 古文編』『同 漢文編』(数研出版)
- ③『完全マスター古典文法』(第一学習社) ④『重要古文単語 315 三訂版』(桐原書店)
- ⑤『新明説漢文』(尚文出版) ⑥『新国語総合ガイド』(京都書房)
- ⑦『国語頻出問題 1200』(いっずな書店)
- ⑧『共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 古典』(ラーンズ)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	【古文】枕草子「宮に初めて参りたるころ」「二月つごもりごろに」 【漢文】逸話 世説新語「三横」	8 3	1学期中間
	5月	随筆 帰田録「売油翁」	3	
	6月	【古文】大鏡「三船の才」「南院の競射」 蜻蛉日記「うつろひたる菊」	9 3	1学期期末
	7月	【漢文】小説 本事詩「人面桃花」	4	
2 学期	8月	【古文】和泉式部日記「薫る香に」	6	2学期中間
	9月	源氏物語「紫の上の苦悩」「紫の上の死」 【漢文】史伝 史記「廉頗・藺相如」	15 5	
	10月	【古文】平家物語「忠度の都落ち」 無名抄「俊成自讃歌のこと」	6 4	2学期期末
	11月	無名草子「清少納言と紫式部」	5	
12月	【漢文】詩話 升庵詩話「唐詩絶句誤字」	4		
3 学期	1月 2月 3月	【特編】問題演習	30	

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合評価する。
 ①定期考查の素点 ②出席状況(欠課・遅刻・早退の数)
 ③授業態度(教材準備・発問評価・積極性等) ④家庭学習状況(課題提出・小テスト・ノート等)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ①予習を前提とした授業を行う。以下を行ったうえで授業に参加すること。
 古文：音読、本文書写、語句調べ、品詞分解、口語訳
 漢文：音読、本文・書き下し文書写、重要漢語・句形のチェック、現代語訳
- ②授業のあったその日のうちに必ず復習し、重要単語・文法事項・句形などを全て覚えていく。

教科	国語	科目	古典B	単位数	2
学年	3年	学科	普通科	履修対象	必修(理系)

1. 学習の目標・概要

古典の教材を読み、当時の文章や考えに触れることにより、古文・漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方等思考の幅を広げる。また、日本の文化や古典への理解・関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 使用教材

- ①『改訂版古典B 古文編』『同 漢文編』(数研出版)
- ②『改訂版古典B 準拠ワーク 古文編』『同 漢文編』(数研出版)
- ③『完全マスター古典文法』(第一学習社) ④『重要古文単語 315 三訂版』(桐原書店)
- ⑤『新明説漢文』(尚文出版) ⑥『新国語総合ガイド』(京都書房)
- ⑦『国語頻出問題 1200』(いっずな書店)
- ⑧『共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 古典』(ランズ)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	【古文】枕草子「宮に初めて参りたるころ」	6	1学期中間
	5月	【漢文】随筆 帰田録「売油翁」	4	
	6月	【古文】大鏡「南院の競射」	5	1学期期末
	7月	源氏物語「小柴垣のもと」	5	
2 学期	8月	【古文】蜻蛉日記「うつろひたる菊」	3	2学期中間
	9月	和泉式部日記「薫る香に」	6	
		【漢文】史伝 史記「廉頗・藺相如」	6	
	10月	【古文】平家物語「忠度の都落ち」	6	2学期期末
		無名抄「俊成自讃歌のこと」	4	
11月	【漢文】詩話 升庵詩話「唐詩絶句誤字」	5		
12月				
3 学期	1月 2月 3月	【特編】問題演習	20	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合評価する。

- ①定期考査の素点 ②出席状況(欠課・遅刻・早退の数)
- ③授業態度(教材準備・発問評価・積極性等) ④家庭学習状況(課題提出・小テスト・ノート等)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ①予習を前提とした授業を行う。以下を行ったうえで授業に参加すること。
古文：音読、本文書写、語句調べ、品詞分解、口語訳
漢文：音読、本文・書き下し文書写、重要漢語・句形のチェック、現代語訳
- ②授業のあったその日のうちに必ず復習し、重要単語・文法事項・句形などを全て覚えていく。

教科	地歴	科目	探究世界史		単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	普通科文系選択者	

1. 学習の目標・概要

2年次の世界史Bの学習成果を踏まえ、より発展的なテーマを扱う。世界史体系的に捉え、進学した際に求められる思考力の定着を図る。

2. 使用教材

詳説世界史（山川出版社）、最新世界史図説タペストリー（帝国書院）、総合マスター世界史B（浜島書店）、

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	近代ヨーロッパの成立	8	中間 考 査
	5月	ヨーロッパ主権国家体制の展開	8	
	6月	欧米における近代社会の成長	1 2	
	7月	欧米における近代国民国家の発展	1 2	
2 学 期	8月	アジア諸地域の動揺	1 3	中間 考 査
	9月	帝国主義とアジアの民族運動	1 7	
	10 月	二つの世界大戦	1 2	
		冷戦と第三世界の自立	1 2	
	11 月	現代の世界	6	
3 学 期	1月	センター演習	2 2	期 末 考 査
	2月	私大・国立2次演習	1 8	
	3月			

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査に加え、平常授業への取り組み、課題プリントの提出、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・課題プリント等の提出物の期限は守ること。
- ・定期考査にはしっかり学習して臨むこと。

教科	地歴	科目	探究世界史	単位数	4
学年	3年	学科	国際教養科	履修対象	国際教養科選択者

1. 学習の目標・概要

2年次の世界史Bの学習成果を踏まえ、より発展的なテーマを扱う。世界史体系的に捉え、進学した際に求められる思考力の定着を図る。

2. 使用教材

詳説世界史（山川出版社）、アカデミア世界史（浜島書店）、総合マスター世界史B（浜島書店）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲	
1 学 期	4月	近代ヨーロッパの成立	8	中間 考 査	
	5月	ヨーロッパ主権国家体制の展開	8		
	6月	欧米における近代社会の成長	1 2		
	7月	欧米における近代国民国家の発展	1 2		期 末 考 査
2 学 期	8月	アジア諸地域の動揺	1 3	中間 考 査	
	9月	帝国主義とアジアの民族運動	1 7		
	10月	二つの世界大戦	1 2		
	11月	冷戦と第三世界の自立	1 2		期 末 考 査
	12月	現代の世界	6		
3 学 期	1月	センター演習	2 2		
	2月	私大・国立2次演習	1 8		
	3月				

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査に加え、平常授業への取り組み、課題プリントの提出、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・課題プリント等の提出物の期限は守ること。
- ・定期考査にはしっかり学習して臨むこと。

教科	地歴	科目	探究日本史		単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	普通科文系選択者	

1. 学習の目標・概要

2年次の日本史A・Bの学習成果を踏まえ、社会経済史・文化史などテーマ別に発展的な学習を行う
また、進学した際に求められる基礎的な知識の定着を図る。

2. 使用教材

詳説日本史（山川出版社） 図説日本史通覧（帝国書院） テーマ学習史料日本史（実教出版）
4ステージ演習ノート（数研出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	原始・古代史総合	6時間	中間 考 査
	5月	中世史総合	10時間	
	6月	近世史総合	12時間	
	7月	近現代史総合	12時間	
2 学 期	8月	政治史①	12時間	中間 考 査
	9月	政治史②	16時間	
	10月	社会史	12時間	
	11月	経済史	12時間	
	12月	文化史	8時間	
3 学 期	1月	センター試験 直前対策	22時間	
	2月	国公立2次・私立 直前対策	18時間	
	3月			

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査に加え、平常授業への取り組み、課題プリントの提出、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・課題プリント等の提出物の期限は守ること。
- ・定期考査にはしっかり学習して臨むこと。

教科	地歴	科目	探究地理		単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	普通科理系選択者	

1. 学習の目標・概要

地理Bの学習成果を踏まえ、系統地理や地誌領域を探究的に学び、発展的な地理的素養を養う。
国内外の時事問題を通して、地誌を探究する能力を身につける。

2. 使用教材

地理B（東京書籍）、現代地図帳（二宮書店）、ウィニングコンパス地理の整理と演習（とうほう）
サクシード地理（啓隆社）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	世界の農業	10	中間 考查
	5月	世界の工業・エネルギー	15	
	6月	人口・交通・貿易	10	期末 考查
	7月	村落	5	
2 学期	8月	都市	5	中間 考查
	9月	人種問題	15	
	10月	言語・宗教・民族	15	
	11月	国家の領域と結びつき	10	期末 考查
	12月	地誌総合	15	
3 学期	1月	問題演習 直前対策	15	
	2月	問題演習 直前対策	20	
	3月	問題演習 直前対策	5	

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考查に加え、平常授業への取り組み、課題プリントの提出、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・課題プリント等の提出物の期限は守ること。
- ・定期考查にはしっかり学習して臨むこと。

教科	公民	科目	政治・経済		単位数	4
学年	3年	学科	普通科理系	履修対象	普通科理系選択者	

1. 学習の目標・概要

- ・社会における政治の機能を理解し、主体的な社会形成者としての自覚を促す。
- ・経済活動の仕組みを学び、人々の生活にどのように関わっているかを理解することを通し現代世界における諸課題を考察する。

2. 使用教材

教科書：高校政治・経済（実教出版）
副教材：政治・経済資料(とうほう)、スタディノート政治・経済（数研出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	資本主義経済と社会主義経済、経済活動と経済主体、市場経済の機能	10時間	中間 考 査
	5月	経済成長と景気変動財政のしくみ、金融機関の働き、物価の動き	10時間	
	6月	日本経済の歩み、中小企業、日本の農業の現状、消費者問題、労働問題	10時間	
	7月	社会保障制度、国際経済、為替相場	10時間	
2 学 期	8月	国際経済機関の役割	12時間	中間 考 査
	9月	国際経済の諸問題、資源・エネルギー問題、政治と法の機能、人権保障	12時間	
	10月	議会制民主主義、日本国憲法、基本的人権、国会、内閣	12時間	
	11月	裁判所、地方自治、政党政治、世論と現代社会	12時間	
	12月	国際政治、国際社会、国際連合	12時間	
3 学 期	1月	安全保障、国際紛争・難民問題、国際平和、まとめと問題演習	20時間	
	2月	まとめと問題演習	20時間	
	3月			

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ①授業への参加状況 [欠出席・態度など] ②授業への準備状況 [教材の準備・整理など]
③課題の提出状況、達成状況 ④定期考査の得点

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・副教材を積極的に活用し、基礎知識を確実にすることが、センター試験での高得点につながる。
- ・時事問題対策として、日頃から新聞やニュースに目を通したりすることも大切である。

教科	国際教養	科目	国際政治経済		単位数	3
学年	3年	学科	普通・国際教養科	履修対象	普通科：選択	国際教養科：全員

1. 学習の目標・概要

現代社会の学習成果を踏まえ、「政治・経済」の中でも特に国際政治や国際経済を探求的に学び、発展的な政治的、経済的教養を養う。
国内外の社会問題を通して、主体的に問題解決をはかろうとする指向を育てる。

2. 使用教材

教科書「高校政治・経済」実教出版、資料集「政治・経済資料2020」とうほう、
問題集「4ステージ演習ノート 政治・経済」数研出版

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	現代の経済 経済社会の変容	9時間	中間 考查
	5月	現代経済のしくみ	6時間	
	6月	現代経済と福祉の向上 日本経済の歩み	6時間	
	7月	中小企業と農業～社会保障の役割	9時間	
2 学期	8月	世界経済と日本	9時間	中間 考查
	9月	現代の政治 民主政治の基本原則	9時間	
	10月	日本国憲法の基本的性格	9時間	
	11月	日本の政治機構、現代日本の政治	9時間	
	12月	現代の国際政治	9時間	
3 学期	1月	現代社会の諸課題	15時間	期末 考查
	2月	問題演習 直前対策	15時間	
	3月			

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考查に加え、平常授業への取り組み、課題プリントの提出、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・関係資料をよく使い、問題の関係性を把握する。
- ・定期考查にはしっかり学習して臨むこと。

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	7
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系選択者

1. 学習の目標・概要

平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身につける。

2. 使用教材

数学Ⅲ（東京書籍）、Standard Buddy WRITE 数学Ⅲ（東京書籍）
改訂版チャート式基礎からの数学Ⅲ（数研出版）、キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間数	考查範囲
1 学 期	4月	第1章「平面上の曲線」	10	中間 考 査
		第2章「複素数平面」	10	
	5月	第3章「関数と極限」	15	
	6月	第4章「微分」	20	
	7月	第5章「微分の応用」	15	
2 学 期	8月	第7章「積分とその応用」	20	中間 考 査
	9月	キートレーニング数学Ⅰ・Ⅱ・A・B 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B 基礎徹底演習	50	
	10月			
	11月	大学入試センター試験対策 総合問題演習	30	
3 学 期	12月			期 末 考 査
	1月	大学入試センター試験対策 総合問題演習	30	
	2月	2次試験対策 総合問題演習	40	
	3月			

計 245 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査の得点を基に、提出物の提出状況・授業態度・出欠席を加味して総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習をして授業に臨み、宿題・課題をきちんとこなし、復習もすること。

教科	数学	科目	総合数学 A		単位数	4		
学年	3年	学科	普通科(文系)・国際教養科	履修対象	選択者			

1. 学習の目標・概要

代数・幾何・解析・確率の各分野にわたる数学の総合的な力を伸ばす。

2. 使用教材

ウィナー3 数学 I A II B

3. 学習の計画

	月	学習内容	時間数	考查範囲
1 学 期	4月	数と式 2次関数	13	中間 考 査
	5月	図形と計量 データの分析 場合の数	14	
	6月	確率 図形の性質 整数の性質	13 (40)	
	7月	数と式	8	
2 学 期	8月	2次関数	12	中間 考 査
	9月	図形と計量		
	10月	データの分析 場合の数と確率	17	
	11月	図形の性質 整数の性質	15 (60)	
	12月	総合演習	8	
3 学 期	1月	総合演習	40 (40)	期 末 考 査
	2月			
	3月			

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査の得点を基に、提出物の提出状況・授業態度・出欠席を加味して総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習をして授業に臨み、宿題・課題をきちんとなし、復習もすること。

教科	数学	科目	総合数学 A	単位数	3
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系選択者

1. 学習の目標・概要

代数・幾何・解析・確率の各分野にわたる数学の総合的な力を伸ばす。

2. 使用教材

キートレーニング数学演習 I・II・A・B

3. 学習の計画

	月	学習内容	時間数	考查範囲
1 学 期	4月	数と式 2次関数	8	中間考查
	5月	図形と計量 データの分析 場合の数	9	
	6月	確率 図形の性質 整数の性質	13 (30)	期末考查
	7月	数と式	8	
2 学 期	8月	2次関数	10	中間考查
	9月	図形と計量		
	10月	データの分析 場合の数と確率	12	
	11月	図形の性質 整数の性質	9 (45)	期末考查
	12月	総合演習		
3 学 期	1月	総合演習	30 (30)	
	2月			
	3月			

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考查の得点を基に、提出物の提出状況・授業態度・出欠席を加味して総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習をして授業に臨み、宿題・課題をきちんとこなし、復習もすること。

教科	数学	科目	総合数学 B	単位数	2
学年	3年	学科	普通科(文系)・国際教養科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

代数・幾何・解析の各分野にわたる数学の総合的な力を伸ばす。

2. 使用教材

ウィナー3 数学 I A II B

3. 学習の計画

	月	学習内容	時間数	考查範囲
1 学 期	4月	式と証明 方程式と複素数	6	中間 考 査 期 末 考 査
	5月	図形と方程式	6	
	6月	三角関数 指数関数と対数関数	8 (20)	
	7月	微分と積分		
2 学 期	8月	微分と積分	9	中間 考 査 期 末 考 査
	9月	平面と空間のベクトル	9	
	10月	数列	8	
	11月	総合演習	4 (30)	
	12月			
3 学 期	1月	総合演習	20 (20)	
	2月			
	3月			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査の得点を基に、提出物の提出状況・授業態度・出欠席を加味して総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習をして授業に臨み、宿題・課題をきちんとなし、復習もすること。

教科	数学	科目	総合数学 B		単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系選択者	

1. 学習の目標・概要

代数・幾何・解析の各分野にわたる数学の総合的な力を伸ばす。

2. 使用教材

キートレーニング数学演習 I・II・A・B

3. 学習の計画

	月	学習内容	時間数	考查範囲
1 学 期	4月	式と証明 方程式と複素数 図形と方程式	12	中間 考 査
	5月	三角関数 指数関数・対数関数 微分	14	
	6月	積分 ベクトル	14 (40)	
	7月	数列 式と証明 複素数と方程式	9	
2 学 期	8月	図形と方程式	10	中間 考 査
	9月	三角関数 指数・対数関数	12	
	10月	微分・積分 ベクトル	9	
	11月	数列	12	
	12月	総合演習	8 (60)	
3 学 期	1月	総合演習	40 (40)	
	2月			
	3月			

計 140

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査の得点を基に、提出物の提出状況・授業態度・出欠席を加味して総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習をして授業に臨み、宿題・課題をきちんとこなし、復習もすること。

教科	理科	科目	物理			単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系物理選択者(2年次物理選択者) ②		

1. 学習の目標・概要

自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てる。
物理法則の理解を求め、科学的な自然観を育成する。

2. 使用教材

改訂版 物理(数研出版)
リードα 物理基礎・物理(数研出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲	
1 学 期	4月	光波	2.5	1学期中間	
	5月	電気と磁気 電場	2.5		
	6月				
	7月				
2 学 期	8月	電流	2.0	1学期末	
	9月	電流と磁場	2.0		
	10月		2.0		
	11月	電磁誘導と電磁波	2.0		2学期中間
	12月	原子 電子と光	1.0		
		電子と原子核	1.0		2学期末
3 学 期	1月	力と運動, 熱と気体, 電気と磁気, 原子の復習と問題演習	1.0		
	2月				
	3月				

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期試験に、平常点(実験レポートの提出点)を加味する。
授業への参加状態(討論等), 出席状況を考慮する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業に遅れたり休んだりしないこと。
提出物の期限を守ること。
教科書の例題・練習問題や問題集の問題を繰り返し解くこと。

教科	理科	科目	化学	単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系化学選択者 (2年次化学選択者)②

1. 学習の目標・概要

自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てる。
化学変化の法則に関する理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2. 使用教材

化学(数研出版)
リードLightノート化学(数研出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	第2編 物質の変化 3: 化学反応の速さとしくみ	7	1学期中間
	5月	4: 化学平衡	10	
	6月	第3編 無機物質 1: 非金属元素	7	1学期末
	7月	2: 金属元素(I) 3: 金属元素(II)	8	
2 学 期	8月	第4編 有機化合物 1: 有機化合物の分類と分析	9	2学期中間
	9月	2: 脂肪族炭化水素	9	
	10月	3: アルコールと関連化合物 4: 芳香族化合物	8	
	11月	第5編 天然有機化合物 1: 天然有機化合物	8	
	12月	2: 天然高分子化合物	8	
			第6編 合成高分子化合物 1: 高分子化合物の性質 2: 合成高分子化合物	9
3 学 期	1月	問題演習	20	
	2月		20	
	3月			

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期試験に、平常点(実験レポートの提出点)を加味する。
更に、出席状況も考慮する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業に遅れたり休んだりしないこと。
提出物の期限を守ること。
教科書の例題・練習問題や問題集の問題を繰り返し解くこと。

教科	理科	科目	生物	単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系 選択(2年次生物選択者) ②

1. 学習の目標・概要

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。(昨年度の2学年で続きを学習と受験に向けての問題演習を行う。)

2. 使用教材

教科書 生物 Biology (東京書籍)
 図表 ニューステージ新生物図表 (浜島書店)
 問題集 実践アクセス総合生物 (浜島書店)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	第5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集	30 (10)	1学期中間
	5月	2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 3章 生態系と生物多様性	(10) (10)	
	6月	第6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ	20 (7) (7)	
	7月	3章 生物の系統	(4)	1学期期末
2 学 期	8月	まとめ・問題集を利用した総合学習	60	2学期中間 2学期末
	9月	問題演習 (生物現象と物質・遺伝子のはたらき)	(20)	
	10月	問題演習 (生殖と発生・生物の環境応答)	(20)	
	11月	問題演習 (生態と環境・生物の進化と系統)	(20)	
	12月	問題演習・直前対策		
3 学 期	1月	問題演習・直前対策	30	
	2月	〃		

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

・定期考査に加え、実習レポート、平常の授業への取り組み、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・授業に遅れたり休んだりしないこと。 ・配布プリントは確実に保存し、提出物の期限を守ること。
 ・実習レポートをきちんと提出すること。 ・定期考査にはしっかりと学習して臨むこと。
 ・備品・標本はていねいに扱うこと。

教科	理科	科目	化学	単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系化学選択者 ①

1. 学習の目標・概要

自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てる。
物質の構造や構造に対する理解を求め、化学的な自然観を育成する。

2. 使用教材

化学 (数研出版)
リード Light ノート化学 (数研出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	第1編 物質の状態 粒子の結合と結晶の構造		1学期中間
	5月	物質の三態と状態変化 気体 液体	5 15	
	6月	第2編 物質の変化 化学反応とエネルギー 電池と電気分解	10	1学期末
	7月		10	
2 学期	8月	化学反応の速さとしくみ 化学平衡	15	2学期中間
	9月	第3編 無機物質 非金属元素 金属元素	7	
	10月		7	
	11月	第4編 有機化合物 有機化合物の分類と分析 脂肪族炭化水素 アルコールと関連化合物 芳香族化合物	8 8	
	12月		7 8	
3 学期	1月	第5編 天然有機化合物 天然有機化合物 天然高分子化合物	10 10	3学期中間
	2月	第6編 合成高分子化合物 高分子化合物の性質 合成高分子化合物	10 10	3学期末
	3月			

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期試験
平常点(実験レポートの提出点、課題ノート提出、出席状況)を加味する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

ノートの作り方を工夫すること。
教科書の例題・練習問題や問題集の問題を繰り返し解くこと。
提出物の期限を守ること。

教科	理科	科目	生物	単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系 選択 ①

1. 学習の目標・概要

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2. 使用教材

教科書 生物 Biology (東京書籍)
 図表 スクエア最新図説生物 (第一学習社) 問題集 リードα 生物基礎+生物 (数研出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	第1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞 2章 生命現象を支えるタンパク質	15	1 学期中間
	5月	3章 代謝とエネルギー 第2編 遺伝子のはたらき 1章 遺伝情報の発現	15	
	6月	2章 遺伝子の発現調節 3章 バイオテクノロジー 第3編 生殖と発生 1章 生物の生殖と配偶子の形成	20	
	7月	2章 動物の発生 3章 動物の発生のしくみ 4章 発生をつかさどる遺伝子 5章 植物の発生		
2 学 期	8月	第4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応	20	2 学期中間
	9月	2章 動物の行動 3章 植物の環境応答		
	10月	第5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集 2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ	20	
	11月	3章 生態系と生物多様性 第6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷	20	
	12月	2章 進化のしくみ 3章 生物の系統		
3 学 期	1月	まとめ・問題集を利用した総合学習	30	
	2月	問題演習・直前対策		

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

・定期考査に加え、実習レポート、平常の授業への取り組み、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・授業に遅れたり休んだりしないこと。 ・配布プリントは確実に保存し、提出物の期限を守ること。
 ・実習レポートをきちんと提出すること。 ・定期考査にはしっかりと学習して臨むこと。
 ・備品・標本はていねいに扱うこと。

教科	理科	科目	理科探究 B (化学基礎 と 生物基礎)	単位数	4
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科 選択者

1. 学習の目標・概要

- ・基礎的な科学的素養(化学 と 生物の2領域)を探究的な学習を通し、科学的なものの見方や考え方を身につけ、進路希望に応じた応用力・考察力を習得する。
- ・実験・実習・観察を通して科学的に探究する能力を身につける。
- ・化学または生物を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。

2. 使用教材

- ・教科書：化学基礎(数研出版) と 生物基礎(東京書籍) …1年次に使用したもの
- ・問題集：リードLight 化学基礎 と ベストフィット生物基礎(実教)新たに購入する予定

3. 学習の計画

	月	学習内容 (化学基礎領域 と 生物基礎領域)		配当時間	考査範囲
		化学基礎領域	生物基礎領域		
1 学 期	4月	酸化還元反応	探究活動	(14)	中間考査
	5月	1.酸化と還元	1. 生物の特徴(多様性と共通性)・光合成に関する探究		
	6月	2.酸化剤と還元剤	2. 遺伝子とそのはたらき(遺伝情報とDNA)・DNAモデル		
	7月	3.金属の酸化還元反応 4.酸化還元反応の利用	3. 生物の体内環境・体液濃度の変化が赤血球に与える影響		
		探究活動 物質の構成・物質の構成粒子分野	4. 植生の多様性と分布・身近な植生と環境との関わり 5. 生態系とその保全・外来生物が生態系に及ぼす影響について	(26)	期末考査
2 学 期	8月	粒子の結合分野	問題演習…問題集を利用した総合学習	(20)	中間考査
	9月	物質と化学反応式分野	知識確認問題演習		
		酸と塩基の反応分野	実験・考察・計算問題演習		
	10月	酸化還元反応分野	総合問題演習		
		総復習	物質の構成と化学結合分野		
	11月	物質の変化分野	〃	(40)	期末考査
	12月	問題演習	模擬問題演習 直前対策	60	
		問題集を利用して総合学習	〃		
3 学 期	1月	問題演習 直前対策	〃	40	
	2月	〃	〃		
	3月	〃	〃		

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- 定期考査に加え、実習レポート、平常の授業への取り組み、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・提出物の期限を守ること。
- ・実習レポートをきちんと提出すること。
- ・備品・標本はていねいに扱うこと。
- ・定期考査にはしっかりと学習して臨むこと。

教科	理科	科目	理科探究 B (生物基礎・地学基礎)		単位数	4
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科	選択者

1. 学習の目標・概要

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な科学的素養(生物と地学の2領域)を探究的な学習を通し、科学的なものの見方や考え方を身につけ、進路希望に応じた応用力・考察力を習得する。 ・実験・実習・観察を通して科学的に探究する能力を身につける。 ・生物、地学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。

2. 使用教材

<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：生物基礎(東京書籍)・地学基礎(数研出版) …1,2年次に使用したもの ・問題集：ベストフィット生物基礎(実教)・ビーライン地学基礎(第一) …3年次新たに購入する予定
--

3. 学習の計画

	月	学習内容		配当時数	考查範囲
		生物基礎領域	地学基礎領域		
1 学 期	4月	探究活動	第6編 宇宙の構成	(14)	中間 考 査
	5月	1. 生物の特徴(多様性と共通性)・光合成に関する探究	第2章 宇宙のすがた		
		2. 遺伝子とのはたらき(遺伝情報とDNA)・DNAモデル	探究活動		
	6月	3. 生物の体内環境・体液濃度の変化が赤血球に与える影響	惑星分野・地殻変動分野		
7月	4. 植生の多様性と分布・身近な植生と環境との関わり	大気環境分野・古生物分野			
		5. 生態系とその保全・外来生物が生態系に及ぼす影響について	環境分野・宇宙分野	40	
2 学 期	8月	問題演習…問題集を利用したの総合学習	総復習 地球科学分野	(20)	中 間 考 査
	9月	知識確認問題演習	地史と古生物分野		
	10月	実験・考察・計算問題演習	気象・海洋分野		
		総合問題演習	天文分野		
	11月	〃			
12月	模擬問題演習 直前対策	問題演習			
		〃	問題集を利用したの総合学習	60	
3 学 期	1月	〃	問題演習 直前対策	40	
	2月	〃	〃		
	3月	〃	〃		

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考查に加え、実習レポート、平常の授業への取り組み、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・授業に遅れたり休んだりしないこと。 ・実習レポートをきちんと提出すること。 ・定期考查にはしっかりと学習して臨むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物の期限を守ること。 ・備品・標本はていねいに扱うこと。
--	--

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科必修

1. 学習の目標・概要

各種の運動を合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる様にするとともに、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

2. 使用教材

なし

3. 学習の計画

	月	学習内容	担当コマ数	考查範囲
1 学 期	4月	オリエンテーション 体力づくり運動 スポーツテスト	(5)	
	5月	スポーツテスト	(2)	
	6月	選択Ⅰ (バレーボール、ソフトテニス、ソフトボール、バスケットボール)	(3)	
		CM練習	(3)	
7月	選択Ⅰ (バレーボール、ソフトテニス、ソフトボール、バスケットボール)	(4)		
	選択Ⅱ 水泳 (クロール、平泳ぎ、背泳ぎ) バスケットボール、ダンス、卓球	(3)	20	
2 学 期	8月	選択Ⅱ 水泳 (クロール、平泳ぎ、背泳ぎ) バスケットボール、ダンス、卓球	(5)	
	9月	陸上 (長距離走)	(3)	
	10月	選択Ⅲ (サッカー、バレーボール、卓球、バドミントン)	(7)	
	11月	選択Ⅳ (ソフトバレー、アルティメット、バドミントン)	(8)	
	12月	選択Ⅴ (バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボール)	(7)	
3 学 期	1月	球技 (バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボール)	(7)	
	2月	球技 (バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボール)	(7)	
	3月	体育理論	(6)	20

計70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

出欠席、授業態度、意欲、技能、集団での行動、協力、服装等で総合的に評価する

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

評価の観点を理解し、安全に気を配り意欲的に授業に取り組む。

教科	芸術	科目	総合音楽	単位数	2
学年	3年	学科	普通・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科音楽選択者

1. 学習の目標・概要

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。

2. 使用教材

MUSIC NOTE〔啓隆社〕

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	表現：歌唱【実技テスト】	10	
	5月	ソルフェージュ【筆記テスト】	5	
	6月			
	7月	鑑賞：ミュージカル「マイフェアレディ」【筆記テスト】	5	
2 学 期	8月	器楽：ミュージックベル	10	
	9月	器楽：ピアノ（キーボード）【実技テスト】	10	
	10月			
	11月			
	12月	鑑賞：オペラ「カルメン」【筆記テスト】	5	
3 学 期	1月	自主課題：各自の課題を設定し発表会を行う	20	
	2月			
	3月			

計70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ①関心・意欲・態度：毎授業ごとの取り組みの状況、遅刻・早退・欠席の状況
- ②芸術的な感受や表現の工夫：感性をはたらかせ、創意工夫を持って豊かな表現活動をおこなうことができたか
- 創造的な表現の技能：上手い下手ではなく、よりよい表現方法を試行錯誤し、創意工夫することができたか
- 鑑賞の能力：各種の鑑賞活動を通して、その良さや美しさを感じ取ることができたか

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

遅刻・欠課をせず、意欲的・積極的な態度を望みます。

教科	芸術	科目	総合美術	単位数	2
学年	3年	学科	普通・国際教養科	履修対象	普通・国際教養科美術選択者

1. 学習の目標・概要

美術の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

2. 使用教材

美術3(光村図書)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	・オリエンテーション ・「思いを伝える手」(絵画)	1	
	5月	〃	12	
	6月	・「様々な表現」(デザイン)	7	
	7月	〃		
2 学 期	8月	・「新しい生活を彩る器」(工芸)	20	
	9月	〃		
	10月	・「自画像」(絵画)	10	
	11月	〃		
3 学 期	12月	・墨で表す(絵画)	20	
	1月	・現代美術、地域美術(鑑賞)		
	2月			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

作品、提出物、発言、授業態度、自己評価、準備・片づけ、出席の状況等総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・作品を期限までに仕上げ、提出すること。・必要な資料、材料等の準備は積極的に行うこと。・授業後の片づけ、物品の管理はきちんとすること。・鑑賞時等には自分の考え方や感じ方を積極的に述べるよう努めること。・幅広く美術に関心を持ち、感性を働かせて、美しく創造的な表現や材料・用具を生かす工夫、技能の向上、自然や人間、文化などの理解等に努め、積極的・意欲的に美術の活動に取り組んで下さい。

教科	芸術	科目	総合書道	単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科選択者

1. 学習の目標・概要

書道の諸活動をとおして、感性を高め、豊かな表現力と能動的な鑑賞力を身につけるとともに、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。

2. 使用教材

手作り教材

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	書の鑑賞と理論「書の特質・書美の諸要素について」	4	
	5月	書表現Ⅰ「少字数書の創作～イメージを膨らませて表現する～」	1 2	
	6月			
	7月	書表現Ⅱ「篆刻～姓名印の制作～」	4	
2 学 期	8月	同上	1 2	
	9月			
	10月	書表現Ⅲ「実用書～住所と氏名の整正表現・書式について」	1 0	
	11月			
	12月	書表現Ⅳ「自由制作～条幅作品制作により表現の主体となることを体認する～」 同上	8	
3 学 期	1月	書表現Ⅴ「共同制作～高校生活の思い出を書で表現する～」	1 2	
	2月			
	3月	まとめ	8	

計 7 0 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

「書表現の構想と工夫」「書への関心・意欲・態度」「創造的な書表現の技能」「鑑賞の能力」を観点に、授業中の取り組み・作品・制作記録などから総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

一般教養としての基礎的な内容から専門的な内容まで扱うが、1, 2年次の履修状況に左右されないように系統的・段階的に学習を進めていく。制作過程を重視して題材選定から作品の完成に至るまで主体的に取り組むことで一つ一つ問題を解決し、達成感を味わってほしい・書表現の難しさと楽しさはその中にある。

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	3年普通科

1. 学習の目標・概要

これまでの培った素地を元に、さらに多くの分野、多様な視点の英文を多く読むことを通して、英文を速くかつ内容を把握しながら読み、内容に関して自分の意見を表現できることをめざす。

2. 使用教材

LANDMARK English Communication III New Edition (啓林館)、Listening Essentials 2(啓隆社)、速読 Reading Core for 共通テスト (啓隆社)、英単語 Stock4500 (文英堂)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当点数	考查範囲	
1 学期	4月	<LANDMARK III> (当初 LANDMARK II の補充) Lesson1: Caffeine: The World's Favorite	<Listening Essentials 2> Unit 1,2	(10)	中間 考查
	5月	Drug Lesson2: Blood Is Blood.	Unit 3,4,5	(10)	
	6月	Lesson3: Australia and its Creatures Lesson4: The \$100,000 Salt and Pepper	Unit 6,7,8	(10)	
	7月	Shaker Lesson5: Bilingual Effects in the Brain Lesson6 Communication without Words	Unit 9,10	(10)	
			速読: Reading Core for 共通テスト 1~10		40
2 学期	8月	Lesson7: Political Correctness	Unit 11	(10)	中間 考查
	9月	Lesson8: Animal Math Lesson9: The Story of My Like	Unit 12,13,14	(10)	
	10月	Lesson10: Extinction of Languages	Unit 15,16,17	(10)	
	11月	Lesson 11: Learning a First Culture	Unit 18,19,20	(10)	
	12月	Lesson12: Light Pollution		(10)	(10)
		速読: Reading Core for 共通テスト 11~20		(10)	60
3 学期	1月	Reading Core for 共通テスト 21~22		(20)	40
	2月	共通テスト対策		(20)	
	3月	国公立2次対策・私大一般入試対策			

計 140

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の4つの観点に照らし合わせて、学習目標への到達度を総合的に評価する。

- ① 関心・意欲・態度 = コミュニケーション能力
- ② 思考・判断・表現 = 文章の内容や自分の解釈を表現する能力
- ③ 理解の能力 = さまざまな内容の英文を理解する能力
- ④ 知識・理解 = 英語を読むにあたっての背景知識の理解

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

○基本的な単語、熟語を徹底的におさえていくこと。○知らない単語が出てきたとき、前後関係、文全体から何を意味するのか推測する癖をつけること。○音読をして自分の口で英語を発する機会を持ち続けること。

教科	英語	科目	英語表現	単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	3年普通科・国際教養科

1. 学習の目標・概要

文法の単元ごとの英作文の問題を通して、自らの身近なことや、考えたことなどを英語で表現するための力を養う。

2. 使用教材

新演習 750 (いっずな書店)、Study Point 750(いっずな書店)、
英文法・語法 Engage (いっずな書店)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当単数	考查範囲
1 学 期	4月	<新演習 750> 1 時制 2 受動態 3 助動詞	Study Point, Engage 左記に対応した学習項目	
	5月	4 仮定法 5 不定詞 6 動名詞		
	6月	7 分詞 8,9 動詞の語法		
	7月	10 動詞を含むイディオム 11 関係詞 12 接続詞		
			20	1 学期中間 1 学期期末
2 学 期	8月	13 前置詞 14 形容詞の語法	左記に対応した学習項目	
	9月	15 副詞の語法 16 比較 17 形容詞・副詞を含むイディオム		
	10月	18 名詞の語法 19 代名詞の 語法		
	11月	20 名詞を含むイディオム 21 主語と述語動詞の一致		
	12月	22 否定・倒置・省略・強調 23 会話表現		
			30	2 学期中間 2 学期期末
3 学 期	1月 2月 3月	共通テスト対策問題・国公立2次、私大英作文	(20)	
			20	

計 70

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の4つの観点に照らし合わせて、学習目標への到達度を総合的に評価する。
 ① 関心・意欲・態度 = 出欠状況、授業態度、提出物など
 ② 思考・判断・表現 = 学習状況、定期考査、小テスト、など
 ③ 技能 = 学習状況、授業態度、定期考査、小テスト、提出物など
 ④ 知識・理解 = 定期考査、小テスト、暗唱テスト、提出物など

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

2年生までに培ってきた文法の知識を総洗いすること。簡単な表現でいいから、自分の持っている知識で英語を書いてみる、発話してみる機会を多く持つこと。

教科	外国語	科目	英語理解	単位数	3
学年	3年	学科	国際教養科	履修対象	3年国際教養コース

1. 学習の目標・概要

これまでの培った素地を元に、さらに多くの分野、多様な視点の英文を多く読むことを通して、英文を速くかつ内容を把握しながら読み、内容に関して自分の意見を表現できることをめざす。

2. 使用教材

LANDMARK English Communication III New Edition (啓林館)、Listening Essentials 2(啓隆社)、速読 Reading Core for 共通テスト (啓隆社)、英単語 Stock4500 (文英堂)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当点数	考查範囲	
1 学 期	4月	<LANDMARK III> (当初 LANDMARK II の補充) Lesson1: Caffeine: The World's Favorite	<Listening Essentials 2> Unit 1,2	(10)	中間 考 査
	5月	Drug Lesson2: Blood Is Blood.	Unit 3,4,5	(10)	
	6月	Lesson3: Australia and its Creatures Lesson4: The \$100,000 Salt and Pepper	Unit 6,7,8	(10)	
	7月	Shaker Lesson5: Bilingual Effects in the Brain Lesson6 Communication without Words 速読: Reading Core for 共通テスト 1~10	Unit 9,10	(10)	
				40	期 末 考 査
2 学 期	8月	Lesson7: Political Correctness	Unit 11	(10)	中間 考 査
	9月	Lesson8: Animal Math Lesson9: The Story of My Like	Unit 12,13,14	(10)	
	10月	Lesson10: Extinction of Languages	Unit 15,16,17	(10)	
	11月	Lesson 11: Learning a First Culture	Unit 18,19,20	(10)	
	12月	Lesson12: Light Pollution 速読: Reading Core for 共通テスト 11~20		(10)	
				(10)	期 末 考 査
				60	
3 学 期	1月	Reading Core for 共通テスト 21~22		(20)	
	2月	共通テスト対策		(20)	
	3月	国公立2次対策・私大一般入試対策		40	

計 140

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の4つの観点に照らし合わせて、学習目標への到達度を総合的に評価する。

- ① 関心・意欲・態度 = コミュニケーション能力
- ② 思考・判断・表現 = 文章の内容や自分の解釈を表現する能力
- ③ 理解の能力 = さまざまな内容の英文を理解する能力
- ④ 知識・理解 = 英語を読むにあたっての背景知識の理解

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

○基本的な単語、熟語を徹底的におさえていくこと。○知らない単語が出てきたとき、前後関係、文全体から何を意味するのか推測する癖をつけること。○音読をして自分の口で英語を発する機会を持ち続けること。

教科	外国語	科目	英語理解	単位数	4
学年	3年	学科	国際教養科・普通科	履修対象	3年普通科・国際教養科選択者

1. 学習の目標・概要

これまでの培った素地を元に、さらに多くの分野、多様な視点の英文を多く読むことを通して、英文を速くかつ内容を把握しながら読み、内容に関して自分の意見を表現できることをめざす。

2. 使用教材

LANDMARK English Communication III New Edition (啓林館)、Listening Essentials 2(啓隆社)、速読 Reading Core for 共通テスト (啓隆社)、英単語 Stock4500 (文英堂)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当点数	考查範囲
1 学 期	4月	<LANDMARK III> (当初 LANDMARK II の補充) Lesson1: Caffeine: The World's Favorite	<Listening Essentials 2> Unit 1,2 (10)	中間 考 査
	5月	Drug Lesson2: Blood Is Blood.	Unit 3,4,5 (10)	
	6月	Lesson3: Australia and its Creatures Lesson4: The \$100,000 Salt and Pepper	Unit 6,7,8 (10)	
	7月	Shaker Lesson5: Bilingual Effects in the Brain Lesson6 Communication without Words 速読 : Reading Core for 共通テスト 1~10	Unit 9,10 (10)	期 末 考 査
2 学 期	8月	Lesson7 :Political Correctness	Unit 11 (10)	中間 考 査
	9月	Lesson8: Animal Math Lesson9:The Story of My Like	Unit 12,13,14 (10)	
	10月	Lesson10 : Extinction of Languages	Unit 15,16,17 (10)	
	11月	Lesson 11: Learning a First Culture	Unit 18,19,20 (10)	期 末 考 査
	12月	Lesson12: Light Pollution 速読 : Reading Core for 共通テスト 11~20		
			60	
3 学 期	1月	Reading Core for 共通テスト 21~22	(20)	40
	2月	共通テスト対策	(20)	
	3月	国公立2次対策・私大一般入試対策		

計 140

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の4つの観点に照らし合わせて、学習目標への到達度を総合的に評価する。

- ① 関心・意欲・態度 =コミュニケーション能力
- ② 思考・判断・表現 =文章の内容や自分の解釈を表現する能力
- ③ 理解の能力 =さまざまな内容の英文を理解する能力
- ④ 知識・理解 =英語を読むにあたっての背景知識の理解

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

○基本的な単語、熟語を徹底的におさえていくこと。○知らない単語が出てきたとき、前後関係、文全体から何を意味するのか推測する癖をつけること。○音読をして自分の口で英語を発する機会を持ち続けること。

教科	英語	科目	時事英語	単位数	2
学年	3年	学科	国際教養科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

実際に英語圏で発信されているニュース記事や報道番組に触れながら、英語での理解力を高める。また、理解した内容について自分の意見を発信するグループディスカッション、プレゼンテーションやエッセイライティングを通して、時事問題についての自分の考えを表現する力を身につける。

2. 使用教材

英字新聞・ニュース番組など

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当点数	考查範囲
1 学期	4月	【Project 1】：What's on Today's paper – Reading newspaper ①Read Headlines on a newspaper	(6)	期末考 査
	5月	②Read a news article ③Summarize the article	(7)	
	6月	④Create PPT on the article 【Project 2】：You know what? (1) – Telling the news		
	7月	①Learn how to speak effectively ②Present the news article	(7) 20	
2 学期	8月	【Project 3】：The 50 facts that should change the world. ① Make a poster on the topic you choose.	(7)	期末考 査
	9月	Project #2 : Introducing (Traditional) Japan Project – essay & pres.	(7)	
	10月	Project #3 : Problems around the world- essay and speech project -	(8)	
	11月	incl. environment, energy, population, inequality, etc Project #4 : Writing Application Letter Project - essay & speech	(8)	
	12月	Project #5 : Research into Colleges, Studying Abroad, etc - essay	30	
3 学期	1月 2月 3月	Newsletter : Fuetsu School Newsletter	(20)	

計 70 コマ

4. 評価の観点・趣旨および方法

①関心・意欲・態度、②思考・判断・表現、③技能、④知識・理解、という4つの観点に照らし合わせて、出欠状況、授業態度、提出物、プレゼンテーション、筆記テスト、口頭試問に基づき、学習目標への到達度を総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

高校での英語コミュニケーション学習の総仕上げとして、いくつかのテーマについてプロジェクト形式で取り組み、プレゼンテーションをする。ALT がいる授業なので、英語を操る喜びを覚えつつ積極的にコミュニケーションをとる姿勢が求められる。リサーチやPPT作成など授業外での準備が多い授業であるため、計画的に進めていくことが大切である。

教科	英語	科目	コミュニケーションスキル	単位数	2
学年	3年	学科	国際教養科・普通科	履修対象	3年国際教養科・普通科選択者

1. 学習の目標・概要

英語によるコミュニケーション能力を高める。少人数のクラス編成で、ALTと日本人教師のチームティーチングによって授業を展開する。主として手作り教材を用いながら、様々なアクティビティを通してコミュニケーションへの態度、姿勢と英語の運用能力をともに育成する。双方向的な活気ある授業をめざす。

2. 使用教材

様々な素材からの手作り教材を使用する

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	Useful expressions, Ideas of Effective Communication, Show & Tell, Journal Presentation Project Blogging and Vlogging	15h	学期ごとにプレゼンテーション、面接、筆記試験を行う。
	5月			
	6月			
	7月		5h	
2 学 期	8月	Short Presentation	15h	
	9月	Debate- PDA Style Debate		
	10月	Debate with Research	15h	
	11月			
	12月			
3 学 期	1月	それぞれのトピックについて個人またはグループで学習、意見交換や相互評価などを行う。	20h	
	2月			
	3月			

計 70 時

4. 評価の観点・趣旨および方法

・プレゼンテーションやディベート、ALT との面接と筆記試験を総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・英語のコミュニケーションでは語学力だけではなく、積極的な姿勢が必要である。また、この講座では高度なトピックも扱い、プレゼン、ディベートなど意見発表を行う。

教科	外国語	科目	英語総合	単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

- ・比較的平易な英文から段階的に学習し、英文の読み方や英文の理解の仕方を再確認する。
- ・文法、語彙を確認しつつ、長文読解力の基礎を養成する。
- ・まとまった文を読むことで、全体の構成や主題をとらえることを目指す。

2. 使用教材

トランスファー英語総合問題演習 コースD 4th edition (桐原書店)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間数	考査範囲
1 学期	4月	Unit 1, 2	10	1学期 中間考査
	5月	Unit 3, 4	10	
	6月	Unit 5, 6	10	1学期 期末考査
	7月	Unit 7, 8	10	
			(40h)	2学期 中間考査
2 学期	8月	Unit 9	3	2学期 中間考査
	9月	Unit 10, 11	15	
	10月	Unit 12, 13	15	
	11月	Unit 14, 15	15	2学期 期末考査
	12月	総合問題演習	12	
			(60h)	
3 学期	1月	総合問題演習	20	
	2月		20	
	3月		(40h)	

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

それぞれの Unit で扱われている文法事項や単語等、一つ一つ身に着けているかを、單元ごとのテストや定期考査で確認する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

文を読めるということは文法的に訳せるというだけでなく、文の意味している内容が想像できるという点まで含む。この教材の文章は内容的に興味深く、様々なテーマにわたっているので、この教材を通して知識と教養を深めることもこころがけてほしい。

教科	英語	科目	精読英語	単位数	2
学年	3年	学科	国際教養科・普通科	履修対象	3年国際教養科・普通科選択者

1. 学習の目標・概要

- ・ 英文を精読し、筆者の意図や考えを読み取りながら解答を作る練習をする。
- ・ 様々な英文に触れ、初見の英文に対する対応の仕方を学ぶ。
- ・ 段階的により高度な英文の読み取りを目指し、読んだことを英語で討論できるようにする。

2. 使用教材

アップリフト英語長文読解 入試演習1 [改訂版] (Z会)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	1 生活・人間関係	各課 2h	1学期 中間考查
		2 生活・人間関係		
	5月	3 地球環境	まとめ 討論 4h	1学期 期末考查
		4 地球環境		
	6月	5 文化・人間	1学期 20h	2学期 中間考查
		6 文化・人間		
	7月	7 文化・人間	各課 2h	2学期 中間考查
		8 自然・科学		
2 学 期	8月	9 自然・科学	各課 2h	2学期 中間考查
	9月	10 言語・コミュニケーション		
	10月	11 言語・コミュニケーション	6h 関連問題	2学期 期末考查
		12 言語・コミュニケーション		
	11月	13 情報・科学技術	まとめ 討論 4h	2学期 30h
		14 情報・科学技術		
	12月	15 社会・経済	2学期 30h	
		16 社会・経済		
3 学 期	1月	17 社会・経済	各課 2h	
		18 医療・健康		
	2月	19 医療・健康 20 医療・健康 総合問題演習	総合問題 16h	
	3月		3学期 20h	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

語彙・文法の知識を確認しつつ、文の部分から全体に至る正確な読み取りを評価する。演習形式で実施し、定期考查によって修得度合いを計る。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

単語や文法などの基礎的な力の不足によって解答を作る妨げにならないよう、基礎的な力を確実にして臨んでほしい。また、問題を解いていく中で基礎力が不足していると感じた場合は、すぐに補強するべく勉強のし直しを始めてほしい。

教科	英語	科目	速読演習	単位数	2
学年	3年	学科	国際教養科・普通科	履修対象	3年国際教養科・普通科選択者

1. 学習の目標・概要

・速読を狙いとした長文素材を数多く読むことで、1文1文を正確に読み解く精読的な読解ではなく、文脈の中で文の意味を類推していくことを学ぶ。また、日本語の文の展開の仕方とは異なる英語の文の展開の仕方を学ぶことで、効率的に、素早く読解をしていくことができるようになる。あわせて、リスニング力の教科もはかる。

2. 使用教材

読んで聴いて速読力アップ LR④ (いっずな書店) その他速読・多読教材

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考査範囲	
1 学 期	4月	1 あるカフェでの出来事 2 小さな町のニュース	1 学期 20h	1 学期 中間考査	
	5月	3 子どもの名前の流行 4 カウンティーフエアの思い出			
	6月	5 ミドル島のコガタペンギン 6 ある高校生の物語		1 学期 期末考査	
	7月	7 働くことについて考えた 8 動物のきずな			
2 学 期	8月	9 昔話：だれが農場を手に入れる? 10 ユニバーサル・デザイン		2 学期 30h	2 学期 中間考査
	9月	11 世界のお守り 12 インターンシップの申し込み			
	10月	13 宿題格差 14 臨時休業のお知らせ			2 学期 期末考査
	11月	15 アカパンダを守る 16 高校生によるレポート			
	12月	17 オンラインで手続き 18 アンダードッグ			
	3月	19 先住民族イヌイットの言語 20 ヨーグルトを作ってみよう 21 現在の電子書籍ビジネス 総合問題演習	3 学期 20h		
1月					

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

内容を理解しながら速読的に読むことができているか、狙いとしている技能が定着しているかを、確認テストや定期テスト等で総合的に評価していく。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

速読といっても、ただ速ければいいというものでなく、内容を的確につかむことができなければ意味がない。したがって、自分の読む速さを意識すると同時に、読み違いがないようにすること、また読み違いが発生した時の原因の分析まで含めて、日常的に行っていく必要がある。

教科	家庭	科目	食文化		単位数	3
学年	3年	学科	普通科	履修対象	3年選択者	

1. 学習の目標・概要

食生活を文化的側面から学ぶとともに食品についての科学的な知識、技術を習得する。またこれからの食生活について展望し、食生活を営む態度を養う。

2. 使用教材

教科書：フードデザイン 新訂版（実教出版）
資料集：2017 生活学・Navi・資料+成分表（実教出版）

3. 学習の計画

	月	学 習 内 容	配当時数	考 査 範 囲
1 学 期	4月	食の意義、世界の食文化、日本の食文化 調理実習①（和菓子）	9	期末考査 （食文 化、歴史、 調 理 実 習、食品 の調理性 と加工）
	5月	食生活の歴史、調理の基本（基本操作） ・調理実習②（春の献立、和食）	10	
	6月	食品の特徴と性質 1) 穀類、豆類、お茶類	8	
	7月	2) 海藻類、出汁、調理の基本（おいしさ）	7	
2 学 期	8月	・調理実習③（夏の菓子） 3) 卵類	5	
	9月	・市販アイスクリームの調査 4) 牛乳、乳製品 ・調理実習④（夏の献立）	10	
	10月	5) 油類 6) 果物類 ・調理実習⑤（中国料理）	14	
	11月	7) 魚類 8) 野菜類 ・調理実習⑥（冬の献立、洋食）	11	
	12月	9) 肉類 10) いも類 ・調理実習⑦（製菓、洋菓子）	10	
3 学 期	1月	11) 嗜好食品 12) 調味料、香辛料、その他	10	
	2月	テーブルコーディネート	8	
	3月	まとめ	3	

計105時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ・定期考査の得点を基にして、提出物の状況、授業態度、実習態度、出欠席状況などを加味する。
- ・年間の評定は、年間を通じて上記内容を総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業に集中し、ノートをしっかり取る。ノート、プリント中心に復習。新聞その他により情報を収集する。

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	3年選択者

1. 学習の目標・概要

保育に関する知識や技術を学ぶことにより、保育の果たす役割や意義、これからの保育のあり方について考え、将来における保育者としての態度を養う。

2. 使用教材

教科書：子どもの発達と保育 新訂版（実教出版）
資料集：2019 生活学・Navi・資料+成分表（実教出版）

3. 学習の計画

	月	学 習 内 容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	4章 子どもの保育 1. 保育の意義と重要性	6	1学期 期末 考 査
	5月	1章 子どもの発達の特性 1. 発達と乳幼児期の意義 2. 発達と保育環境	8	
	6月	3. 児童観と発達観	7	
	7月	2章 子どもの発達過程 1. 子どもの発育	4	
2 学 期	8月	2. 子どもの精神発達 保育実習	4	2学期 中間 考 査
	9月	3. 人間関係の発達 保育実習	6	
	10月	4章 子どもの保育	9	2学期 期末 考 査
	11月	5章 子どもの福祉	7	
12月	3章 子どもの生活 1. 生活と養護 2. 子どもの遊び 子どもの食事	5		
3 学 期	1月	3. 生活習慣の形成 4. 健康管理と事故防止	7	3学期 期末 考 査
	2月	まとめ	5	
	3月		2	

計70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ・定期考査の得点を基にして、提出物の状況、授業態度、実習状況、出欠席状況などを加味する。
- ・年間の評定は、年間を通じて上記の内容を総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・保育実習、乳児ふれあい体験などがあります。
- ・実習費が必要です。
- ・授業には積極的に参加し、新聞などにより情報を収集しましょう。

教科	家庭	科目	食文化（2単位）	単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	3年選択者

1. 学習の目標・概要

食文化の成り立ち、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を習得し、食文化を伝承しようとする態度を身につける。

2. 使用教材

教科書：「フードデザイン」（実教出版）
資料集：「生活学Navi 資料+成分表 2019」（実教出版）

3. 学習の計画

	月	学 習 内 容	配当時間	考查範囲
1 学 期	4月	栄養素の働き、食事摂取基準 調理実習①	6	1学期 期末考查
	5月	日本の食文化 食文化の成り立ち	8	
	6月	食の歴史 日常食の献立 調理実習②	6	
2 学 期	7月	調理実習③	5	2学期 期末考查
	8月	調理実習④	3	
	9月	行事食 調理実習⑤	6	
	10月	調理実習⑥ 調理実習⑦	8	
	11月	飯田下伊那の郷土料理 調理実習⑧	8	
3 学 期	12月	調理実習⑨	6	3学期 期末考查
	1月	世界の食文化 調理実習⑩	8	
	2月	テーブルマナー	6	
	3月	まとめ		

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

・定期考查、レポート、授業態度、出欠席状況などを総合的に判断し、評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・調理実習がありますので、エプロンと三角巾を用意してください。
・電卓を用意してください。
・実習費が必要です。

教科	家庭	科目	服飾手芸		単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	履修希望者	

1. 学習の目標・概要

- ・手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得する。
- ・手芸品を創造的に制作し、服飾に活用する能力を身につける。

2. 使用教材

「2019 生活学N a v i 資料+成分表」（実教出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間	考查範囲
1 学 期	4月	編み物の基礎	6	* 定期考 査は実施 しない。
	5月	編み物の作品作成	8	
	6月	小テスト	6	
2 学 期	7月	ミシンを使った作品制作	5	
	8月		3	
	9月	小テスト	6	
	10月	ミシンを使った作品制作	8	
	11月	小テスト ▶	8	
3 学 期	12月	作品制作	6	
	1月		8	
	2月	小テスト	6	
	3月	まとめ		

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

提出作品、実習題材の基礎知識についての小テスト、授業態度、出欠状況などを総合的に判断し、評価します。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業は制作実習を主とするため、欠席すると制作進度が遅れます。欠席しないこと。
- ・課題や作品は、必ず提出すること。
- ・教材費が必要です。